

## ●高校生の部 決勝戦 14 : 15～

《先攻チーム》八戸聖ウルスラ学院高等学校

《後攻チーム》青森山田高等学校

### ステージ①／先攻チームによる政策提案《先攻／八戸聖ウルスラ学院高等学校》（4分間）

#### 八戸聖ウルスラ学院高等学校さん

これから政策提案を行います。よろしくお願いします。

まずわれわれが提案する政策の目的についてお話しさせていただきます。一つ目は消費者の省エネに対する意識改革をし、自発的行動を促進すること。二つ目が産業と環境保護の両方の活性化をすることです。そこでわれわれは『楽しく』『実現可能な』『行動する』という三つのテーマを元に政策を考案しました。

技術が揃っている日本で省エネをより促進するために、消費者の省エネ活動に対するイメージをポジティブなものに変える必要があると考えました。

これまでの省エネ活動は、節水や節電など制限がかかるものが多くありました。そこでわれわれは、この制限や我慢というイメージを払拭し『楽しい！』『やりたい！』という気持ちになってほしいと思いました。

そこで私たちが提案するのは『エラベル！クラベル！トラベルマイレージ！』という政策です。繰り返します。『エラベル！クラベル！トラベルマイレージ！』という政策です。この政策は、環境負荷の高い物質を排出しない商品につくらベル、エコフレンドリーラベル、通称『エラベル』。環境保護に貢献するサービスを提供している企業につくらベル、クリーンラベル、通称『クラベル』がついた商品を消費者が購入することで、還元率10パーセントのマイレージが貯まっていく仕組みになっています。

マイレージを貯める媒体としては、スマートフォンのアプリやカードを想定しています。貯まったマイレージを利用して、グリーンツーリズムに行くことや、エコフレンドリー商品と交換することができます。グリーンツーリズムの内容としては、田植えや漁業体験などの一次産業体験、いかだ作りなどの自然と遊ぶ体験、自然遺産訪問などを予定しています。

一次産業体験を行う目的としては、体験をして楽しんでもらうことはもちろん、後継者不足などの一次産業が抱える問題や、それぞれの産業がもつ魅力に関心を持ってもらい、結果として、産業の活性化が期待できると考えました。そしてグリーンツーリズムを行うことで、地方を訪れる人が増え、観光産業の発展にも繋がると考えました。エコフレンドリー商品の内容については、エコフレンドリーラベルのつく商品に準じて、充電して再利用できるニッケル水素電池、消しカスを燃やしたときにダイオキシンを排出しない非塩化ビニル性消しゴム、洗って再利用できるアコラップなど、再利用でき、地球環境に優しい商品を予定しています。

利益、効果の説明をさせていただきます。まず、消費者の省エネに対する意識改革を行い、自発的行動を促すことです。省エネに対するイメージをポジティブなものに変え、消費者が自ら省エネ活動を行うよう促します。また、現在使っている商品からエコフレンドリー商品への代替による省エネ効果が期待されます。そして、産業

と環境保護の両方の活性化をすることもポイントとなります。通常は両立が難しいとされているこの二つの活性化が期待できます。

われわれがこの政策の中でもっとも重要視しているのは、楽しく、自発的に、実現可能な行動をするという三つの点です。制限が強られるようでは、根本的な問題の解決にはならないと考えました。われわれは特に楽しいという部分を重要視して、政策を考案いたしました。以上で発表を終わります。ありがとうございました。

## 後攻チームのための準備時間（2分間）

## ステージ②／先攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換（5分間）

### 青森山田高等学校さん

まず一つ目にエコラベルとグリーンラベルをつける製品の基準は、何を基にして決めるというのは決めているんでしょうか。

### 八戸聖ウルスラ学院高等学校さん

エコラベル、クリーンラベルですが、たくさんの商品につくものですので、現在ここで全ての基準を出すという事は不可能であります。それは企業とかに任せてしまいますと不平等が起きますので、国単位で統一した基準を設ける必要があるかなというふうに考えています。

### 青森山田高等学校さん

分かりました。マイレージをつけるものがスマホでのアプリかカードということでしたが、お年寄りとか子どもとか、スマホがなかったり、カードを持っても活用しにくい人たちがいるので、全体の年齢層に活用しにくいと思うんですけど、そのへんはどうですか。

### 八戸聖ウルスラ学院高等学校さん

まずスマートフォンのアプリについてですが、現在は60代の方でも8割、そして70代の方でも6割がスマートフォンを持っているんですね。スマートフォンのアプリというところにおいては、まずそこでかなり大きな範囲をカバーできるものではないかなというふうに思っています。カードですが、こちらはクレジットカードのように複雑な仕組みにせず、シンプルなものを使っていきたいと思っていますので、子どもやお年寄りでも使いやすいものになるのではないかなというふうに考えています。

### 青森山田高等学校さん

具体的にこの働きで、どのくらいのCO<sub>2</sub>が削減されるのかが明らかになっていれば教えてください。

### 八戸聖ウルスラ学院高等学校さん

まず私たちが打ち出している環境政策というのは、CO<sub>2</sub>だけをターゲットにしたものではございません。環境

政策というのは、狭い視野で行ってはいけません。ですので、CO<sub>2</sub>に限らず、大気汚染や水質汚染など、具体的な数字を出すのは難しいですが、広い範囲で行っていただければ良いかなと考えています。

#### 青森山田高等学校さん

「CO<sub>2</sub>を目的としていない」と言いましたが、環境汚染とか水質汚染にはどのようにすることで削減できると考えていますか。

#### 八戸聖ウルスラ学院高等学校さん

まず一番大きなポイントとして挙げたいのは、エコフレンドリーラベルのついた商品です。先ほどの提案でも明示しましたように、処理のときに有害ガスを発生しないものであるとか、再利用ができるということで、ごみを減らすというところですか、処理のときに有害ガスを発生しないとか、そういった広い範囲での環境への良い影響があるというふうに考えていただければいいかなというふうに思います。

#### 青森山田高等学校さん

マイレージを交換することで、いろいろな体験ができるということの例で、いかだ作りが挙がっていたのですが、いかだ作りって木で行うと、それこそ環境破壊につながってしまうと思うので、他の材料でやるとか、そういうことは考えていたりしますか。

#### 八戸聖ウルスラ学院高等学校さん

もちろん森林の保護も大切なところではありますが、そちらも伐採林というところも無駄が出てしまっている状況もありますので、そういったふうに無駄がないようにというところを重視して、楽しいアクティビティを用意していただければいいかなというふうに考えています。

#### 青森山田高等学校さん

制限をかけなければ大きな流れというものはできないと思うんですけども、エコポイントを広げる方法というのは具体的に何かありますか。

#### 八戸聖ウルスラ学院高等学校さん

広告についてですが、それはかなりシンプルな方法でいいかなと思っています。例えばテレビでの広告とかネット広告とかです。この政策自体がかなり消費者にとってインパクトがあるものであると考えていますので、シンプルな広告によって、かなりの人々の興味や関心を寄せていただくことは可能ではないかというふうに考えています。

#### 青森山田高等学校さん

マイレージの交換をして、できるものが体験だったり、グッズっていうのを先ほどおっしゃいましたが、例えば先ほど例に出ていた漁業とかだと、海なし県とかも実際にあるわけで、ちょっと活動できるものが減ってし

まうところもあると思うんですけど、そういうところにはどのように対策をするおつもりでしょうか。

### 八戸聖ウルスラ学院高等学校さん

そのシステムについては、もう一度説明申し上げますが、なにも県内で行うということではなくて、日本の中の広い範囲で、例えばある程度遠くても、楽しいアクティビティがあれば行っていただきたいと思いますし、そうしたことによって、広いかたがたに自然を守ることの大切さというのを広めていける政策ではないかなというふうに考えています。

### ステージ③／後攻チームによる政策提案《後攻／青森山田高等学校》（4分間）

#### 青森山田高等学校さん

それでは後攻チームとして政策を提案させていただきます。よろしくお願ひします。

始めに、取り上げる社会問題の現状分析と、提案する政策を支える理想的な社会像を述べます。

私たちがCO<sub>2</sub>削減のために取り上げる社会問題は、CO<sub>2</sub>排出の大きな原因である食品ロスの問題です。

日本の食品ロスは年間600万トン、その食品の生産、運搬、廃棄に関わるCO<sub>2</sub>量は、環境省によれば1億トン以上です。特に一般の人々の意識が低い上に、コロナ禍で巣ごもり需要が増え、家庭からの生ごみの排出量が増えていると、各自治体が推計しています。

そこで第二に食品ロスに関心を高め、CO<sub>2</sub>削減の暮らしを選ぶ消費者を100パーセントに近づける社会を理想とします。

第三に理想の社会を実現するための政策を提案します。

その提案を名付けるならば『3つのもったいないの選択がつくる持続可能な未来』政策です。

その3つのもったいないを紙で示します。

『一、そのまま捨ててはもったいない』。『二、まだ食べられるぞもったいない』。『三、CO<sub>2</sub>ももったいない』。この3つのもったいないをつなぐ政策です。

一つ目、そのまま捨ててはもったいない。

日本人が大切にしてきたもったいないを、一人一人が意識するために、生ごみの分別を義務、有料化します。同時に生ごみを出さないように、自宅でコンポストを使うことも進めるために、コンポスト購入に補助金を出します。収集した生ごみはバイオガスに変え、ごみ収集車の燃料にして、CO<sub>2</sub>排出の削減に貢献し、コンポストでできた堆肥は、花や畑の肥料や家畜の飼料として販売し、第三の政策、人工光合成の基金とします。生ごみ分別義務有料化政策がこの基金につながることも、政策として広く周知できるようにします。

生ごみの分別を義務、有料とすれば、生ごみを減らすために、買いすぎや、捨てる場所を減らす工夫を選択する家庭が増え、家庭で調理をする全ての年齢層に効果があります。この政策で、家庭からの食品ロスの削減に貢献することの流れを作り出すことができ、年間3000万トンのCO<sub>2</sub>削減につながると考えられます。

二つ目、まだ食べられるぞ、もったいない。賞味期限や消費期限が近くなったものなどは、それを必要とする人につなげることで、かなりの食品ロスが防げます。そこで、在庫を抱える企業と、必要な消費者をつなぐ、おすそわけマッチングアプリや、フードバンクの設立に補助金を出す政策を行います。SNSが使える年齢層は、こ

のおすそわけアプリを利用しやすいように、買った値段に応じたポイントをつけることで、意識を高めます。

また、SNS のアプリには、賛同する企業の広告バナーをつけて、その広告料も第三の政策の基金にします。SNS が使えない年代向けには廃校舎などを利用し、公的なフードバンクを開設し、在庫を抱えた企業と、欲しい人が現物を見て買う形でつなげるという政策です。この政策で食品ロスが無関心から起きていること知るきっかけとなり、食品ロスに対する意識を高めるための流れに貢献すると考えます。

以上二つの政策でできた基金は、三つ目の CO<sub>2</sub> ももったいない政策に運用します。現在 CO<sub>2</sub> と水と光触媒で太陽エネルギーを使い、製品として作り出す人工光合成が日本で開発されています。基金はその開発や実用化に使うことを意識してもらうことで、自分が選択したもったいないの行動が、CO<sub>2</sub> ももったいないで再利用につながる流れを作り出すこととなります。よって政策プロジェクトを進めることで、地球を思いやる選択から、CO<sub>2</sub> の削減に向けた大きな流れを作り出すことができるようになると思います。

以上が私たちの政策提案です。

#### 先攻チームのための準備時間（2 分間）

#### ステージ④／後攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換（5 分間）

##### 八戸聖ウルスラ学院高等学校さん

政策提案、ありがとうございます。そこで、消費者への負担が大きくないでしょうか。また、それに対するメリットは何でしょうか。お聞かせください。

##### 青森山田高等学校さん

消費者の負担が大きいは具体的にどのような点ですか。

##### 八戸聖ウルスラ学院高等学校さん

生ごみを減らすことに対してです。

##### 青森山田高等学校さん

生ごみを捨てる際に有料化にするとかは、有料化にすることで、消費者の皆さんができるだけ払うお金を少なくしたいという思いから生ごみの量を減らしてくれることがメリットとなっております。

##### 八戸聖ウルスラ学院高等学校さん

ありがとうございます。ですが、その生ごみを捨てるために新たに出費があるということですね。そうすると新たにお金を払いたくないという人が多いのではないのでしょうか。

##### 青森山田高等学校さん

お金を払いたくない人が極力生ごみが出ないよう、フードロスの減るように、できるだけ有効活用できるふう

な料理の仕方を考えていくことで、そのことは解決できると思います。

#### 八戸聖ウルスラ学院高等学校さん

分かりました。ありがとうございます。続いてフードロス、生ごみの分別などは家庭の生ごみをという話がありました。それでは外食産業はどうなるのでしょうか。外食産業からは生ごみがたくさん出ると思います。

#### 青森山田高等学校さん

先ほどの話、政策提案にもありましたように、コンビニなど外食とかの所にはコンポストの設置を促すようにし、コンポストっていうのが生ごみを分別するものなので、そこで解決されています。

#### 八戸聖ウルスラ学院高等学校さん

では、そのコンポストや生ごみ回収の財源はどのようにするのでしょうか。

#### 青森山田高等学校さん

コンポストっていうのが、そもそもそこまでお金のかかるものではないので、高くても3万とかそのぐらいのものなので、半額ぐらいを政府のほうからとか、自治体から出すと、だいぶ使うところが増えると思っています。

#### 八戸聖ウルスラ学院高等学校さん

すいません、3万というのは、どこからデータがきましたか。

#### 青森山田高等学校さん

今コンポストはネットとか売ってるのを見ると、大体3万とか、そのぐらいの値段で売られています。

#### 八戸聖ウルスラ学院高等学校さん

一つのコンポストに3万円ということですよ。それをたくさんのお店、飲食店に置くとなるとやはりお金がかかると思います。

#### 青森山田高等学校さん

そのかかるお金は、普通の一般家庭から出てくる有料化で払ってもらったお金から補うようにします。

#### 八戸聖ウルスラ学院高等学校さん

分かりました。改めてその三つの政策において、私たち消費者に目に見えるメリットはありますか。

#### 青森山田高等学校さん

具体的なのだと、フードバンクの設置とかで、その消費期限が近い物だったりとかを買ってもらうことで、フードロスを削減、今自分たちが買うことで削減できているんだなというのは感じられると思います。

### 八戸聖ウルスラ学院高等学校さん

生ごみの分別を行うということでしたよね。虫や動物が集まる対策や不法投棄などは、どのようにお考えですか。

### 青森山田高等学校さん

蓋のようなものを用意すれば虫などは来ないと思っています。有料化ということですので、お金を払わないと蓋が開かないなどそういうシステムにすると、不法投棄もできないと思います。

### 八戸聖ウルスラ学院高等学校さん

お金を払わないと蓋が開かないってことは、お金がかかるから不法投棄したくなると思います。

### 青森山田高等学校さん

その前に生ごみを多く出してしまおうとかかるお金が増えるっていうのを消費者の皆さんに知っていただければ、極力減らしたいと考えて、ほとんどの人がそこまで生ごみが出ないようにするっていうのはあると思います。

### 八戸聖ウルスラ学院高等学校さん

そうするとメリットがないと私たちは考えました。そこらへんはまとめのほうで、ぜひお願いします。

(準備時間 5 分間)

### ステージ⑤／後攻チームによる論点明示と政策の再提案 (4 分間)

### 青森山田高等学校さん

それでは先ほど先攻チームの聖ウルスラ学院高等学校の皆さんとの論点の整理と、再提案をさせていただきます。まず出された論点をまとめ上げていきます。

第一は消費者に対する負担が大きいのではないかということに関してです。これに関しては負担があるほうが、負担があると、じゃあその負担を減らすために生ごみの排出を減らそうとするので、それが目に見えるメリットだと考えます。

次に生ごみを出したくない人が増えるのではということに関しては、私たちは生ごみを出すことに対して有料化するという政策をとるので、それこそ生ごみを出さないようにしようとする人が増えると考えます。

次に外食産業等に対するのはどうするのかということに関しては、外食産業の人たちにはコンポストの設置をしてもらって、コンポストを設置する際にかかるお金に関しては、生ごみの有料化からとった基金や、今まで廃棄するためにかかっていた基金をそちらにまわしたいと考えています。

次に不法投棄などに関してはどうするのかということに関してです。これに関しては、不法投棄をするともちろん公共の場の衛生面が悪くなることも目に見えています。なので、虫を寄せないために、寄金から脱臭する

ためのものを設置したり、またはもったいないの心をみんなに植え付けるというのが私たちの最大のモットーと  
していますので、その心を育てていけば、皆さまにモラルが生まれて、不法投棄することも少なくなると考えま  
した。

きょうの論点を元に二つの提案を比較し、すぐれている点について述べます。聖ウルスラ学院さんは、後継者  
が少なくなっている第1産業にも焦点を当てており、楽しい政策で気の良さをアピールできているというところ  
があり、とてもいいと思いました。

しかしCO<sub>2</sub>を削減していくための選択をするという意識付けを行い、その選択を大きな流れとして将来に向け  
てずっと続けていくことが大切ということを考えれば、私たちの提案は子どもから高齢者までの広い年齢層を対  
象にしているというところや、作品ロスに対する意識を高める流れに貢献できるというところがあり、より良い  
政策であると考えます。特に現在、身近なところからCO<sub>2</sub>を削減していくだけではなく、これまで排出してきた  
CO<sub>2</sub>を再利用して減らすことや、この先、排出されるCO<sub>2</sub>を再利用して、ノンカーボンをし続ける取り組みである  
人工光合成への投資を提案するという点で、私たちの政策のほうが貢献できるのではないかと考えます。

#### ステージ⑥／先攻チームによる論点明示と政策の再提案（4分間）

##### 八戸聖ウルスラ学院高等学校さん

まとめに入りたいと思います。

まず質問のほうのまとめからしていきたいと思います。2点ですが、まず一つ目がこのイベントが県によって  
差があるのではないかとということでした。ですがこの企画自体、都会の人が田舎のほうへ行くってところだ  
けを想定したわけではなくて、田舎の人でも都会の人でも関係なく、たくさんの方へ行って自然と関わる楽しい  
体験をしていただいて、それで意識を育んでいただければなというところでしたので、そこによる違いはあまり  
ないのではないかなというふうに思いました。

もう一つCO<sub>2</sub>の排出に関する話でした。まず一つ申し上げておきたいのが、私たちの政策がCO<sub>2</sub>だけに絞った  
ものではないということですね。幅広い環境問題にいい影響があるのではないかとというふうに考えて、この政策  
を打ち出させていただきました。そこで、ですが、CO<sub>2</sub>も大切な問題であります。ですので、そのエコツアー  
の段階で、時期を分散させたり、飛行機の空席を有効に利用していくことで、無駄のない化石燃料の使用を節減  
していければ、現在よりはいいというところではのではないかなというふうに思いました。

次に両チームの発表を分析したいと思います。相手チームの政策では義務にするとおっしゃっていましたが、  
義務にしてしまうとやらされているという感じの部分が大きくなってしまい、自発的行動ではなくなってしま  
うのではないのでしょうか。その点、私たちは『エラベル』『クラベル』のついた商品をも自分自身で他の商品と比べ、  
そして選ぶというように自発的行動が起こしやすいと思います。

また、相手チームの政策は無駄を減らす、や、買う物を減らすというようにマイナスにしていく考え方、いわ  
ゆる引き算的な考え方をしてはいますが、減らしていくのには限界があると思います。しかし私たちの提案は、エ  
コな商品をたくさん取り入れるというふうに、どんどんプラスにしていく考え方、いわゆる足し算的な考え方を  
しているのが違う点だと思いました。するとこの政策は楽しく行われる、プラスにしていくので、やらされてい  
るという部分が減り、楽しく行え、国民も取り入れやすいと思いました。すると二次的、三次的な効果も期待で

きると思います。

また、カードの活用ですが、現在マイナンバーカードというものがあります。そのマイナンバーカードに取り入れることで、高齢者でも取り入れやすいと考えました。また、エコな商品を取り入れるということは、繰り返し使えるので、ごみを減らせると思います。ごみを減らせれば、CO<sub>2</sub>の削減もできるのではないかと考えました。

このようにモラルや制止などに頼らず現実的に、また明らかに消費者のメリットをつくっていくことで、楽しく、まずはマイナスを避けるという形ではないというように、自発的行動を促すことによって、新たな省エネ社会、エコフレンドリーな社会というのが実現していくのではないかなというふうに思いました。最後になりますが、私たちは『エラベル！クラベル！トラベルマイレージ！』という政策で、新たなスタンダードをつくっていけることを期待しています。ありがとうございました。